

## 総務常任委員会調査中間報告書

### 1 調査事件

庄内南部定住自立圏について

### 2 調査目的

平成24年3月22日、総務省が定めた定住自立圏構想推進要綱に基づいて、鶴岡市は中心市宣言を行った。庄内町はその中心市宣言に賛同し、鶴岡市と相互に役割を分担し連携を図りながら、鶴岡市、三川町及び庄内町の区域に必要な都市機能及び生活機能を確保し、安心して暮らせる庄内南部定住自立圏を形成することを目的に、平成24年10月5日協定を締結した。その目的達成のために、協定に基づき具体的な連携事業を盛り込んだ計画「庄内南部定住自立圏共生ビジョン」を平成25年3月に策定している。この計画は5カ年計画であり、平成25年度は、計画の初年度でもあることから、定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取り組みについて調査することとした。

### 3 調査経過

平成24年12月17日（会期中）

平成25年1月11日 情報発信課からの聞き取り

平成25年1月17日

平成25年1月24日 保健福祉課、農林課、情報発信課、商工観光課からの聞き取り

平成25年2月1日

平成25年2月6日

平成25年2月12日

平成25年2月15日

平成25年2月21日

### 4 調査状況

〔現況〕

鶴岡市、三川町及び庄内町が連携して取り上げる際の観点は、①既存の施設やサービス、事業において、利便性の向上や効果的な事業拡大につながる事項②市と両町の間で既に連携して取り組んでいる事業の中で、特別交付税措置などの財政措置が受けられることを踏まえ、協定項目に位置づけることが望ましい事項③これまで各市町がそれぞれに実施してきた事業で連携して取り組むことが効果的な事項としている。

具体的な政策分野については、【生活機能の強化に係る政策分野】、【結びつきやネットワークの強化に係る政策分野】、【圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野】としている。

【生活機能の強化に係る政策分野】

(1) 医療について

ア 医師等の確保対策

圏域の基幹病院である鶴岡市立荘内病院は現在 67 人の医師が従事しているが、特に内科系の医師が不足している。病院の医師等の確保については、鶴岡市が高校生を対象としたオープンホスピタル事業を行ったり、研修医確保に向けた病院説明会（山形、仙台、東京など）に参加している。また、当地域出身者で県外に勤務する医師、医学生への呼びかけや、新潟大学・山形大学医学部への勧誘を行っている。

庄内町では、医師の確保対策については取り組んでいないが、看護師については、山形県看護協会で作成したチラシ等を保健センター窓口に置いている。また、山形大学・山形県立保健医療大学・荘内看護専門学校等から、地元出身者の地域研修生を町保健福祉課で受け入れている。

なお、山形大学医学部の研修医の受け入れについては、庄内余目病院が受け入れ締結を行っている。医療従事者数は表 1 のとおりである。

表 1 医療従事者数 (単位：人)

項目	鶴岡市		庄内町	山形県	全国
	平成 20 年 12 月	平成 22 年 12 月			
医師	240 (163.8)	235 (172.0)	30 (129.5)	2,589 (221.5)	295,049 (230.4)
歯科医師	73 (49.8)	71 (52.0)	10 (43.2)	671 (57.4)	101,576 (79.3)
薬剤師	190 (129.7)	182 (133.2)	15 (64.8)	1,905 (163.0)	276,517 (215.9)
保健師	82 (56.0)	64 (46.8)	12 (51.8)	554 (47.4)	45,028 (35.2)
助産師	30 (20.5)	29 (21.2)	1 (4.3)	297 (25.4)	29,672 (23.2)
看護師	974 (664.9)	987 (722.4)	108 (466.4)	9,858 (843.3)	952,723 (744.0)
准看護師	623 (425.3)	555 (406.2)	80 (345.5)	3,267 (279.5)	368,148 (287.5)

資料：山形県健康福祉企画課 「平成 22 年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」  
( )内の数値は人口 10 万人対比値

イ 休日及び夜間における診療体制

鶴岡市が設置する鶴岡市休日夜間診療所及び鶴岡市休日歯科診療所については、関係市町及び医療関係団体並びに各種メディアを通じ、休日夜間診療所等の利用に関するパンフレットの配布やポスターの掲示等により、普及啓発活動を行っている。

庄内町は、平成 24 年 11 月の広報から普及啓発を行っているが、鶴岡市休日夜間診療所及び鶴岡市休日歯科診療所の利用者数は少ない状況にある。利用状況は表 2、表 3 のとおりである。

**表2** 鶴岡市休日夜間診療所及・鶴岡市休日歯科診療所の利用状況 (単位：人)

項目	鶴岡市	三川町	県内	県外	合計
休日夜間診療所年間利用者数	4,921(89.7)	171(3.1)	165(3.0)	231(4.2)	5,488
休日歯科診療所年間利用者数	401(85.3)	12(2.6)	39(8.3)	18(3.8)	470

資料：鶴岡市健康福祉部健康課（平成23年度）（ ）は比率（%）

**表3** 鶴岡市休日夜間診療所・鶴岡市休日歯科診療所の庄内町の患者数 (単位：人)

		9月	10月	11月	12月	1月	計
休日	総数	474	329	433	802	1,006	3,044
	庄内町	8	4	5	7	28	52
平日	総数	119	183	139	226	174	841
	庄内町	2	1	3	4	2	12
合計	総数	593	512	572	1,028	1,180	3,885
	庄内町	10	5	8	11	30	64

(平成24年9月1日～平成25年1月20日)

ウ がん検診受診率向上に向けた取り組み

がんの早期発見・早期治療に有効な検診については、市・各町が一体的にがん検診の周知啓発を図るためのチラシの作成やキャンペーン、講演会開催などを実施し、さらに企業や保険組合等との連携を取りながら、受診状況の実態調査と受診勧奨を行っている。

締結に向けた活動として、三川町にある大規模商業施設で、多くの若い世代への三市町合同がん検診受診率向上啓発事業（平成24年9月1日(土)、2日(日)）を行った。

庄内町のがん検診受診者数の推移は、表4のとおりであり、平成24年度は途中値であるが、横ばい状況である。

**表4** 庄内町がん検診受診者数 (単位：人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
肺がん(結核)	4,769(55.2%)	4,801(55.5%)	4,551(56.5%)
胃がん	3,515(40.7%)	3,568(41.2%)	3,169(39.3%)
大腸がん	4,278(49.5%)	4,383(50.6%)	4,270(51.7%)
子宮がん	2,424(42.7%)	2,327(40.9%)	1,751(33.6%)
乳がん	2,205(42.0%)	1,324(25.2%)	1,074(22.5%)

( )は受診率、平成24年度は平成25年1月21日現在

(2) 福祉について

ア 病児・病後児保育施設の相互利用

圏域の各市町で実施している病児・病後児保育施設のサービスについては、病児・病後児保育施設「カトレアキッズルーム」及び「にこっと」が実施する内容を、市及び各町の住民が利用できるようにするとともに情報提供に努めている。

鶴岡市の産婦人科・小児科三井病院が運営する「カトレアキッズルーム」は一日2人の定員であり、三川町の私立いのこ保育園内の「にこっと」は特に定員は明記していないが、病気の状況によって受け入れ人数等を判断している。両施設とも日曜・祝日・年末年始は休みとなっている。

平成24年度の庄内町からの「カトレアキッズルーム」の利用はないが、いのこ保育園に通う本町園児の「にこっと」の利用はある。

庄内町では、医師の常駐と専用スペースが求められる病児・病後児保育施設はないが、町内3カ所の保育園で保育途中に体調不良になった場合には、保護者が迎えに来るまで看護師が対応する体調不良児保育を行っている。病児・病後児保育については、今のところ保護者からの要望は寄せられていない。

#### イ 一時保育施設の相互利用

圏域内の認可保育所が実施している一時預かりについては、市及び各町の住民が利用できるようにするとともに、情報提供に努めている。

庄内町では、保育体験無料クーポン券事業での一時預かりは、年間5枚のクーポン券を利用できる。本町の一時預かり状況は、平成22年度は237人、23年度は136人となっており利用者は減少している。一方、保育園入所者数は増加傾向にある。3施設の一時的預かり数は**表5**のとおりである。

**表5** 保育園一時預かり・入所利用状況 (単位：人)

保育園名	利用状況	平成22年度	平成23年度
余目保育園	実人数	161 (96)	71 (95)
	延人数	636	335
狩川保育園	実人数	54 (85)	40 (87)
	延人数	243	93
すくすく保育園	実人数	22 (99)	25 (132)
	延人数	211	241
合計	実人数	237 (280)	136 (314)
	延人数	1,090	669

( ) は保育園入所者数

#### ウ 鶴岡市子ども家庭支援センターの広域利用

鶴岡市子ども家庭支援センター「にこふる」で行われている子育て環境の充実を図るための育児相談、育児講座等の事業については、市以外の各町の住民も利用できるようにするとともに、各町の住民への情報提供に努めている。

庄内総合支庁の庄内子育て情報サイト「TOMONI」も開設している。平成25年3月には藤島を会場に、庄内総合支庁子ども家庭支援課の庄内地域子育てサポートネットワーク協議会事業では、未就学児対象の親子で遊べる「仲良し広場」の開催を予定している。

庄内町では、子育て支援センターや鶴岡市子ども家庭支援センターの利用者同

士の相互交流が行われている。

(3) 教育について

ア 鶴岡市中央公民館女性センターの広域利用

鶴岡市が設置・運営する鶴岡市中央公民館女性センターは、資格取得準備講座（パソコン講座・簿記講座）や女性講座、相談等の事業について、鶴岡市以外の各町住民が利用できるようにするとともに、情報提供に努めている。

(4) 産業振興について

ア 圏域の産業人材の育成

（財）庄内地域産業振興センターは、地域産業の技術力向上と事業の高度化に資するための人材育成事業に対して、共同支援（運営費・受講費の一部補助）を行っている。庄内町では、同センターに、出捐金として1,111千円を支出している。

産業人材の育成としては、各市町の経済団体等で育成別職業研修を行っている。また、国でもハローワークを通じて雇用開発等の事業を実施していることもあり、（財）庄内地域産業振興センターの利用は少ない。

イ 水田農業の研究・研修活動等の促進

庄内水田農業推進機構が行う、水田農業の振興・発展のための農業者を対象とした生産技術や加工・販売等に関するフォーラム・ワークショップの開催と、消費者や企業等との連携・交流を図るための研修会の開催に対して、圏域全体で連携して支援を行っている。また、山形大学農学部と連携した小学生の親子を対象にした、農業を深く理解するための水田農業体験「わんぱく農業クラブ」を5月～11月まで月1回実施している。

ウ 育苗施設等農業施設の相互利用

庄内町種苗センター運営協議会では、圏域の産地化の拡大・強化を図るために、花卉育苗施設を広域で利用拡大することにより、高品質かつ低価格で安定的な花卉苗の供給を促進している。

花卉育苗施設では、町内への供給に余力がある時は本町以外の供給もしてきたが、施設の経年劣化によって射光が悪く、需要に見合った供給ができない状況にあり屋根面の張り替えを進めている。平成24年度の実績は、生産者の後継者不足や高齢化等により町内での需要量は増加していない。

エ 内水面漁業の振興対策

圏域の各市町は、内水面漁業協同組合が行っている魚族の増殖や漁場環境の保全等の取り組みに対して、補助金を交付し振興支援に努めている。

庄内町では赤川漁業協同組合に、年額47,000円の補助金を支出している。

オ 観光推進団体等支援

出羽三山地区観光開発促進期成同盟会は、圏域の一層の観光振興のため、全国有数の観光地であり山岳信仰の地である出羽三山地区の受け入れ環境の整備について、現地調査等観光開発事業、公衆トイレ管理事業、県道月山公園線交通混雑対策事業、月山8合目給水事業及び要望活動を行っている。

カ 圏域観光の魅力発信の連携強化

圏域の一層の観光振興のため、新たな観光資源の掘り起こしや、古くから育んできた伝統芸能の発信、観光推進団体等への支援などを各市町で連携・協力して行い、圏域の魅力発信の強化を図るとしている。なお、事業内容の調整は平成 25、26 年度に行い平成 27 年度からの事業実施としている。

キ 食文化や映画を活かした地域文化の発信、創造的人材の育成

圏域の豊かな食文化資源と大型ロケ施設やコミュニティ型映画館、映像制作人材など映画資源を基盤に、地域文化情報の発信や創造的人材の育成、創造的文化産業の創出に取り組み、食関連産業や観光振興、商店街の活性化などにつなげている。

(5) その他

ア 下水道事業の連携

地震等の自然災害が頻発するなか、圏域の各市町における汚水処理の連携及び下水道施設の横断的活用により、公共用水域の水質保全と生活環境の向上を図るとともに、災害時の汚水処理機能の確保については、流域下水道及び公共下水道等の管路・処理施設の整備並びに相互活用に係る事業連携プランを策定し、その事業推進について研究・検討・整備・管理運営を関係市町の連携によって推進するとしている。

実施スケジュールとして、事業連携プランの策定は平成 24、25、26 年度で行い、平成 27 年度からプラン実施としている。

【結びつきやネットワークの強化に係る政策分野】

(1) 地域公共交通について

ア 圏域公共交通ネットワークの確保維持及び利用促進

圏域の公共交通ネットワークの維持強化のため、圏域内の行政関与バス運行体制の確保を事業者や国、県へ働きかけるとともに、バス利用に関する情報を分かりやすく提供し利用促進を図っている。

庄内町の圏域内バス路線運行事業の状況については**表 6**のとおりである。鶴岡・清川線は、走行距離往復 58.1 km、運行回数一日 3 往復（平日のみ）の運行をしている。運行のための庄内町生活交通バス運行維持費補助金は、庄内町と鶴岡市が赤字分を実車走行距離で按分して交付している。

**表 6** 圏域内バス路線運行事業 鶴岡・清川線の状況

	鶴岡市	庄内町	計
利用者数（人）	4,707	1,196	5,903
走行距離（往復、km）	37.1	21.0	58.1
平成 24 年度補助金額（千円）	5,660	3,198	8,858
負担割合（％）	63.9	36.1	100

（平成 23 年 10 月～24 年 9 月）

(2) 道路等の交通インフラの整備について

ア 道路整備や維持管理の連携による市町道ネットワークの向上

老朽化の進んでいる道路・橋梁について、地域間を結ぶ市町道の現状を把握し、長寿命化に向けた修繕計画の策定及び補修・補強を行うことにより、地域間ネットワークの向上を図っている。

本町の圏域間を結ぶ市町道に架かる橋梁は、「小中島本小野方橋」、「藤立橋」「吉方橋」、「本落合橋」の4橋梁が該当する。

(3) 地域の生産者・消費者等の連携による地産地消について

ア 地域産材利活用の推進

圏域の林業再生及び関連産業の振興を図るため、地域産材を使った家づくりを推進する民間ネットワーク組織「つるおか住宅活性化ネットワーク」では、地元産木材を利用し地元の住宅関連技能者や工務店等によって、地域の住環境に配慮した「つるおか住宅」づくりを活性化させるためのモデル住宅建設を募集し、採用された3戸に対し、1戸当たり100万円の補助を行っている。また、「庄内の森林から始まる家づくりネットワーク鶴岡・田川」では地域材を使用した家づくりの良さを市民に周知を図る目的で地域材住宅建設への柱材50本の提供（年間3棟分）を行っている。各市町それぞれが地域産材を使った家づくりの普及促進に努めている。

庄内町では、平成24年度庄内町地元産材利活用推進補助金制度によって、新築の場合は最高額で30万円（県1/2、町1/2）の補助金が受けられる。

(4) 地域内外の住民との交流・移住促進について

ア 婚活対策の拡大について

「つるおか婚活支援ネットワーク」では、旧町単位で婚活支援のイベントを年1回開催している。圏域の若者の成婚を促進し地域の活力向上を図るため、取り組みの輪を圏域内に拡大し、情報を共有するとともに、婚活支援事業補助金の対象を各町の企業及び団体等に拡大して行うために、庄内南部婚活支援ネットワーク（案）及び庄内町婚活支援事業補助金（案）、庄内町街コン実行委員会補助金（案）が、平成25年度の事業案として予定している。

「つるおか婚活支援ネットワーク」の登録団体は企業・自治組織・社会福祉協議会等の28団体であり、事業の応援団体として旅行代理店・市内ホテル・市内飲食店等17団体が加入している。

【圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野】

(1) 中心市等における外部からの行政及び民間人材の確保について

(2) 圏域内市町の職員等の交流について

ア 圏域の地域活力向上に資する合同研修・交流等職員の人材育成

鶴岡市が実施している各種職員研修を基本に、研修の企画立案・運営を1市2町で行い、研修の質的充実と圏域の職員間の交流を図るとともに、外部より専門家を招き、課題解決能力、政策立案能力等の一層の向上を図るとしている。

庄内町では、町独自の研修の実施や庄内広域行政組合（2市3町）主催・県の

全域を対象とした合同研修・交流への職員派遣を行っている。

[課 題]

【生活機能の強化に係る政策分野】

- (1) 医療について
- (2) 福祉について
- (3) 教育について
- (4) 産業振興について
- (5) 下水道事業について

【結びつきやネットワークの強化に係る政策分野】

- (1) 地域公共交通について
- (2) 道路等の交通インフラの整備について
- (3) 地域の生産者・消費者等の連携による地産地消について
- (4) 地域内外の住民との交流・移住促進について

【圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野】

- (1) 中心市等における外部からの行政及び民間人材の確保について
- (2) 圏域内市町の職員等の交流について